



## 幼稚園民営化は撤回を!

### 地域から怒り 市議会「拙速」批判

橋下徹市長は8月8日の定例記者会見で「市立幼稚園民営化計画(案)」、民営化に14・15年度着手し廃園する8園、民間移管する1園を発表しました。(詳細は号外参照)

廃園…(25年度)津守、(26年度)堀川、海老江西、新高、中本、旭東、墨江、瓜破  
民間移管…(25年度)靱、野里、城東、泉尾、常盤、(26年度)…桜宮、玉造、五条、立葉、榎本、粉浜

保護者代表も参加した8月6日の協議会で橋下徹市長が「民営化は幼児教育を充実させるためのツールで、それ自体が目的化してはいけない」と述べながら、2日後に19園もの民営化を発表したこと

に該当幼稚園の地域からはもちろん、関係者から怒りの声が上がりました。8月28日に開かれた市会子ども委員協議会では市議員から、「地域から怒り。19園は数が多い、拙速(公明)」、「検証もなく民営化が自己目的化している」(自民)、「保護者から受け入れ体制ない

のに拙速の声」(みらい)、「アリバイづくりの関係者協議会。保護者の不安に何も答えていない」(共産)など「拙速」批判相次ぐ(読売29日付)協議会となりました。大阪市の保育を充実させる会は9月4日、民営化白紙撤回

を求める陳情署名を約1万筆提出し、議員要請、市民宣伝を行います。大阪市教は9月10日の市役所包囲行動(市対連、大阪市をよくする会主催)、30人以下学級を求める署名など、引き続き大阪市に対する要求運動を強めます。

市長は「保護者の選別にさらして自然に統廃合を促す手法として学校選択制がある」とし、「小学校も公立でなくてもよい。公設民営化も挑戦したい」とまで述べ、公教育の責任を放棄しています。大阪市は11学級以下の学校を統廃合の対象としています。が、欧米並みの25人学級にすれば、学級増となり、統廃合の小学校「対象校」は半減します。そもそも、世界では小さな

学校を大切に、WHOは100人以下が望ましいとしています。いま、実現すべきことを、30人以下学級(第3項目)で、すべての子どもたちにゆきといた教育を行うことです。

## 平和憲法を守れ 学習、宣伝を



国教職員一斉行動が行われ、大阪市教本部は森ノ宮で、各支部は地域で憲法街宣を行います。(写真は8月24日の森之宮での街頭街宣) 全教は安倍首相宛「憲法を守り、いかすことを求めます! ジャンボハガキ」の取り組みを提起しました。職場での積極的な取り組みをお願いします。

## 9条改憲…ぞっとしました

### 原水禁大会に初参加

原水禁大会初参加で、長崎に集う人達の熱意に圧倒された2日間でした。



なかでも、「映像の広場」で上映された『おろづる』は印象的でした。国が原爆症の認定を渋っていること、今でも訴訟を起こして戦いを続けていること。そして日本はNPT条約にサインしていないこと。ショックでした。

私は心のどこかで、原爆も戦争もあくまで昔の話と思いついでいたのでしょうか。全然終わっていないじゃないか。この先、原爆体験者がいなくなると、憲法9条が改憲してしまう。オリーブ・ストーリーの『もうひとつのアメリカ史』も、見ていて鳥肌が立ちました。アメリカの「実験」と威嚇に

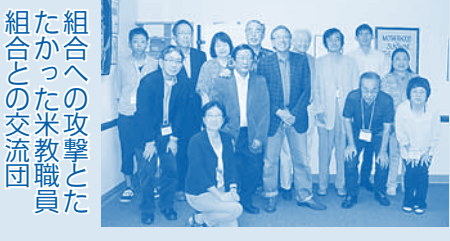
使われたヒロシマ・ナガサキ。そして被爆国であるはずの日本と、核保有国アメリカとのほの暗いつながり。まるでゲームの駒のようで、国は人の命を一体なんだと思っているのか、憤りを感じずにはいられません。時が過ぎ、原爆や戦争のリアリティーは薄れていく一方で、私は教師として子ども達に何を伝えられるだろうか。

「教え子を戦場に送らない。」今回の参加を出発地点として、今一度考え直そうと思います。(青年部Y)

## すべての教員に尊厳を

### ウィスコンシン2013

この夏、米ウィスコンシン州の教職員組合を訪ねました。マディソンでは、団体交渉権制限に対す



る闘い、シカゴでの尊厳を勝ち取った止めるための闘いを聞いてきました。どこでも厳しい状況の中、教職員組合だけでなく、他の組合、地域、保護者と連帯を結び、地道に闘ってこられたことを聞きました。

印象的だったのが、ポスターに書かれている言葉。「すべての子どもたちのために成功を」(城北支部)

安倍内閣が解釈改憲で強行しようとしている「集団的自衛権」の行使の容認について、法令の解釈を行う内閣法制局長官経験者から批判や異論が相次いでいます。(注)集団的自衛権とは、自衛とは別の概念で海外での武力行使を可能とするもの。

9月9日から「憲法を守り、いかす全マルかじりゼミ 平和憲法と私 9月20日(金) 18:30~ アネックスパル法円坂

**仲間が増えた!**  
**「ふらっとキタday」おしゃべりFriday、**  
**「しゃべりば、につどい 組合加入**

青年の集まりを大切にしたい各支部の取り組みが進んでいます。書記局を開放して集まる、北大阪支部の「ふらっとキタday」、あったかい手料理が迎えてくれる、城北支部の「おしゃべりFriday」、学習とおしゃべりの西大阪支部「しゃべりば座談会」等々、青年が主体となってすすめる動きが生まれています。

西大阪支部では、青年たちが、自分達でできることやろうと計画。先輩たちのバックアップを受けながら継続して取り組んできました。中心になっている青年の職場の、新採の友達も毎回参加。そんな中で、組合の必要性や楽しさを実感し加入しました。職場をつくり仲間をふやす、その主人公は、まさに、青年!

教え子を再び戦場に送るな!